



〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263)53-8802

FAX (0263)51-1290

E-mail: sogokyoiku-kikaku@pref.nagano.lg.jp

目次

教職員研修会サポートについて	p.1,2
今年度の研修講座の様子（教科教育部・企画調査部）	p.3
クリアチャレンジ問題について	p.4

校内教職員みんなで学びあう

教職員研修会サポート



「教職員研修会サポート」の手順

☆研修講座の**受講前**でも**受講後**でも申込みをすることができます！

STEP1 日程調整

○教頭先生より、企画調査部へお電話いただき、日時について担当主事と打合せをします。

STEP2 申請書送付

○教職員研修会サポート申請書を作成し、企画調査部へメール送付します。

STEP3 研修会準備

○担当主事と連絡を取り合い、研修会の運営や内容等について打合わせします。

STEP4 研修会当日

○受講者が講師となり、研修会を行います。
【※必要に応じて担当主事がサポートします。】

STEP5 研修会后

○研修会を振り返り、アンケート用紙を企画調査部にメール送付します。

☆申込み、お問い合わせはこちら

【担当】長野県総合教育センター企画調査部

電話 0263-53-8802

電子メール sogokyoiku-kikaku@pref.nagano.lg.jp

☆申請書等は

長野県総合教育センターホームページ
(トップページ→学校支援)

からダウンロード

教職員研修会サポート対象講座

実施済み講座

校内研修でぜひご活用を!!

教科・領域・分野	対象校種	講座名	講座日	対応する願い(キャッチコピー)
学校づくり・学級づくり	小中特	更新しつづける教育観	6月4日(火)	あなたが大事にしている「観」はなんですか。お互いの「観」を語り合いませんか。
	小中高特	学校ぐるみで取り組むカリキュラム・マネジメント	6月28日(金)	カリキュラム・マネジメントの実践方法を、教職員みんなで対話を通して考えてみませんか。
	小中高特	学校組織が駆動するICT活用の可能性	7月5日(金)	ICTってとても効率的！すぐにでもできそうなことが意外にたくさん見つかります！
	小	小学校 学級づくり 基礎	7月12日(金)	資質・能力の育成に向けた学級づくりについて、全学級に広げてみませんか。学級づくりについて語り合いましょう。
ICT・プログラミング	小中特	創造性を育むプログラミング教育	6月20日(木)	プログラミングの教材(KeyTouch,micro-bit)も貸し出します。先生方が体験することからはじめましょう。
総合的な学習の時間・総合的な探究の時間・道徳	小中特	道徳性を育むための授業づくり	6月17日(月)	児童生徒が考えを深めることができるような発問や補助発問、問い返しを一緒に考えましょう。
生徒指導・特別支援教育	小中高特	児童生徒理解と課題への対応 基本Ⅰ	6月3日(月)	1人1台端末時代の今、端末を使用することを前提とした情報モラルの育み方を学びませんか。
	小中高特	連携・危機対応 応用	6月11日(火)	保護者との連携・協働ができる関係を築きませんか。
	小中	スタート！特別支援学級 A	6月7日(金)	「何から始めたら…」 「どうやって？」など、悩みを一人で抱えず特別支援学級の基本的なことを一緒に考えませんか。
	小中	スタート！特別支援学級 B	6月27日(木)	
	小	通常の学級で学びにくさの壁を壊そう！ A	6月17日(月)	学びにくさを抱える子供の背景を知り、子供たちが自分に合った学び方を選択できる授業づくりについて学びませんか。
	中	通常の学級で学びにくさの壁を壊そう！ B	7月8日(月)	
学校体育	小中特	仲間をつなぐ授業づくり(中南信)	7月11日(木)	子どもたちが互いを認め合いながら運動の楽しさを味わっていく授業づくりについて一緒に考えてみませんか。
	小中特	体育学習スタート1	7月6日(土)	子どもたちが器械運動の魅力を味わうことができる授業づくりについて一緒に考えてみませんか。

今後実施される講座



どちらの講座も申し込みできます。

教科・領域・分野	対象校種	講座名	講座日	対応する願い(キャッチコピー)
学校づくり・学級づくり	中	中学校 学級づくり 基礎	7月25日(木)	資質・能力の育成に向けた学級づくりについて、全学級に広げてみませんか。学級づくりについて語り合いましょう。
	小中高特	学級づくり・学校づくり	8月9日(金)	「チーム学校」に向けた学び合いの場を作りませんか。
	小中高特	学校組織マネジメント 応用Ⅱ	12月6日(金)	教育法規の視点から、学校現場で起こりうる事例をもとに、リスクマネジメント、クライシスマネジメントについて学びましょう。
ICT・プログラミング	小中特	子供の願いが連続するプログラミング教育	9月19日(木)	プログラミングの教材(KeyTouch,micro-bit)も貸し出します。先生方が体験することからはじめましょう。
	小中高特	ICTを活用した校務の効率化 基本Ⅰ	8月9日(金)	クラウドアプリにより、ICTの効果的な活用について理解を深め、実践につなげましょう。
	小中高特	ICTを活用した校務の効率化 基本Ⅱ	10月3日(木)	校務の情報化による効率的な校務処理と教育活動の質の改善について一緒に考えてみませんか。
総合的な学習の時間・総合的な探究の時間・道徳	高特	総合的な探究の時間 授業づくり	8月5日(月)	生徒が本気で取り組む総合的な探究の時間にするための具体的な方法を一緒に考えてみましょう。
	小中特	総合的な学習の時間の単元構成	9月20日(金)	少し立ち止まって実践を振り返り、先生同士で語り合いながら探究的な学習の過程を意識した単元構成を考えましょう。
生徒指導・特別支援教育	小中高特	児童生徒理解と課題への対応 基本Ⅱ	10月10日(木)	子供の発達課題を踏まえ、不登校の子供や保護者にどのような言葉がけや関わり方をすればよいかを学びませんか。
	小中特	児童生徒理解と課題への対応 基本Ⅲ	10月11日(金)	愛着に課題を抱えている子供、かかわりの難しい子供を理解し、子供と一緒にできるソーシャルスキルを学びませんか。
	小中	個別の指導計画の作成と活用	9月3日(火)	子どもたちの笑顔につながる支援を目指し、個別の指導計画の作成、有効活用についてチームで見直してみませんか。
	小中	特別支援学級での自立活動の指導	10月18日(金)	児童生徒の困りを支え、主体的に取り組める自立活動の具体を一緒に考えてみませんか。
学校体育	小中特	仲間をつなぐ授業づくり(東北信)	10月11日(金)	子どもたちが互いを認め合いながら運動の楽しさを味わっていく授業づくりについて一緒に考えてみませんか。
	小中特	体育学習スタート2	9月19日(木)	子どもたちがボール運動の魅力を味わうことができる授業づくりについて一緒に考えてみませんか。
	小中特	体育学習スタート3	10月1日(火)	子どもたちが陸上運動の魅力を味わうことができる授業づくりについて一緒に考えてみませんか。

中学校・高校英語 基礎Ⅱ ～言語活動における ICT の活用～ 6月21日(金)

「言語活動」とは「互いの考えや気持ちを伝え合う」ものであるという点を理解し、言語活動を充実させるためにICTをどのように活用したらよいかを見いだすことが、この講座のねらいです。受講者は、英語での様々な活動を体験するとともに授業支援クラウドを使って、ICT 活用の効果について理解を深めました。

初めに、英語での他己紹介や単語クイズなどを行いました。その後、これらの活動は「言語活動」かどうかを確認し、自身が授業で実施している活動について振り返りました。



演習では、ICT を用いた活動を生徒の立場で体験したり、受講者同士で各校のICT活用事例を共有したりしました。

また、言語活動のねらいに応じて、授業支援クラウドの付箋ツールや思考ツールを使うと、生徒たちが情報や考えを整理し、具体化し易くなるということについて理解を深めました。そして、思考ツールの種類や特徴を踏まえて、考えや気持ちを相手により分かりやすく伝えるための活用法について考えました。



演習 (ペア/グループ)

受講者の感想

言語活動は、生徒が英語を使っていれば成り立つものだと思っていました。自分の考えや気持ちを伝え合うことだとは知らなかったため、今後はそれをより意識して、言語活動を設定したいと思いました。

Google Classroomやロイロノートを、これまで資料配布や課題回収の用途でのみ使用していました。考えの整理や意見の共有などのために使えるツールも、これからたくさん使ってみたいです。

信州大学教職大学院連携講座 「更新しつづける教師」 ～多様な一人ひとりの学びを保障する教室づくり～

6月4日(火)実施

講師：信州大学教職大学院教授 谷内 祐樹 先生、信州大学教育学部教授 徳井 厚子 先生

午後は、外国籍児童生徒へのかかわり方について学びました。同じ場面であっても、文化によってとる行動が異なる事例が示され、外国籍児童生徒が学校生活の中で戸惑う場面についてグループで考えました。



例1 日本とは違うブラジルの割り算の筆算

$$431 \div 17 = 25 \text{ 余り } 6$$

(筆算)

431	17	431	17	431	17
	34	34	2	34	25
	091	091		091	85
		6		6	

例2 中国で食事をごちそうになったら…?

残さず食べると「おかずが足りなかった」という意味になってしまうため、全部は食べずに一口程度残すのがマナーです。

受講者のふりかえりから

今までの当たり前を取り除いた時、見えてくるものがあることに気付かされました。これまでモセオリー通りの対応というのを意識しすぎてしまっていたように思います。

「自ら問いを立て、積み重ね、振り返って、次につなげる」こんな学び方をいっそう大切にしていこうと思いました。「観」の“更新”という視点で、明日からの自分が具体的にどうつなげるのが大事だと感じました。

「クリア・チャレンジ問題」を活用してみませんか？

☆ドリルの時間に「クリア問題」を活用☆

Clear 1年 数学 クリア問題 1月① (月 日)

名前 _____

① 次の計算をしろ。

(1) $\frac{1}{4} + (-\frac{2}{3})$ (1) _____

(2) $18 - 12 \div (-3)$ (2) _____

(3) $(4a - 6) - 2(a - 3)$ (3) _____

② 次の方程式を解きなさい。

$x + 1 = 3x - 5$ $x =$ _____

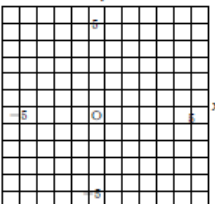
③ 水槽に水を入れていきます。a分間にb Lの水が入ります。同じ割合で水を入れていくと、1分間では何 Lの水が入りますか。

下のア～カの中から「1分間に入る水の量を求める式」を1つ選び、その記号を答えなさい。

ア $a - b$ イ $a \times b$ ウ $a \div b$

エ $b - a$ オ $b \times a$ カ $b \div a$ _____

④ 比例の関係 $y = -2x$ のグラフをかきなさい。



★「クリア問題」は、知識や技能の定着を確認する問題を掲載しています。

【クリア問題を活用している学校からの声】



帰りの学活に、5分程度のドリルの時間を設けています。クリア問題は、問題の質・量ともに使いやすいです。子どもたちの取り組みも良好です。

ドリルのために、職員が問題を作成していましたが、大変でした。クリア問題を使うと、問題を作成する時間が短縮できて助かっています。



ドリルの時間に、クリア問題をやっています。間違えた問題を見直して、苦手なところを克服しています。

☆教材研究などに「チャレンジ問題」を活用☆

「書き手が一番伝えたいことは何だろう」という課題で、要点を捉える学習を設定しよう。



英語の文章では、一番伝えたいことが、どこに書かれることが多いのか生徒が気付くといいな。

3年 Challenge

英語チャレンジ問題 7月

1 あなたは、今、雑誌の中の William Parker の記事を読んでいます。この記事で William Parker が一番伝えたいことはどんなことですか。最も適切なものを、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。

Thank you for sending me interesting *SNS messages. I enjoy reading your messages every day. Today, I want to tell you that writing is an important part of my life. I decided to be a *novelist when I was a junior high school student. Just before I *graduated, I wrote an *original story and showed it to some of my friends. That story was full of important *memories from our school days. After reading it, one of my friends said "I could remember our school days. I was happy to spend a good time with you." When I heard her words, I found that I like writing. That experience made me decide to be a novelist. I believe that people can learn a lot of things by reading books. People can *expand their world. Please enjoy reading many kinds of books. I will keep writing new books *throughout my life.



★「チャレンジ問題」は、児童生徒が思考、判断して、自分自身の考えなどを表現できるような問題を掲載しています。

また、指導事項に沿った問題になっているので、教材研究などにもお使いください。